

## ◆オタリテック NAB2024 レポート

NAB ショー会場の南西に2023年9月にオープンした巨大な球体型の複合施設である Sphere は270度の映像と360度のイマーシブオーディオが圧巻で、LAWO のシステムが多数導入されていた。



Sphere 内部の様子



LAWO の機材

Video I/O に Edge が8台、Audio I/O に A\_mic8 x 4 台、A\_Stage 80 x 10 台、A\_madi6 x 10 台、A\_Digital 64 x 11 台、そして Power Core x 4 台 と

HOLOPLOT が HOME に接続されていた。

Audio Process 用に A\_UHD Core x 8 台、音声卓は mc<sup>2</sup>96 x 3 台と mc<sup>2</sup> 36 x 2 台、制御用には HOME と VSM が導入されていた。

なお4月16日の朝、LAWO のブースで、Sphere において4/18 から21までライブを行う Phish の FOH エンジニア、Garry Brown による講演が行われ、盛況であった。

### ■ LAWO ブース



LAWO の目玉は、HOME Apps に mc<sup>2</sup> DSP の追加が発表されたこと。これまでは LAWO の専用の DSP (UHD Core 等) が必要であったが、COTS サーバー上でプロセスが可能となった。



巨大な球体型の複合施設 Sphere 外観

### ■ RIEDEL ブース



RIEDEL は例年通り、赤一色でひととき目を引くブース。

Simply Live については1/3ほどのスペースを使って、大きくPRされ、映像へ本格的に注力していることが、見て取れた。また、新商材「RiCapture」がお披露目された。



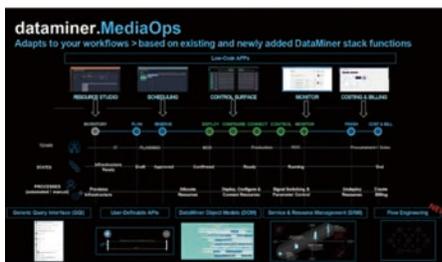
RiCapture i8、i44、i84 の追加によって、RiCapture インジェスト・ソリューションの大幅な拡張が発表された。RiCapture i4 を補完するこれらの新機種は、チャンネル密度の向上、UHD 解像度、8ビットと10ビットのサポート、内蔵SSDストレージの拡張、および

# Information and Topics

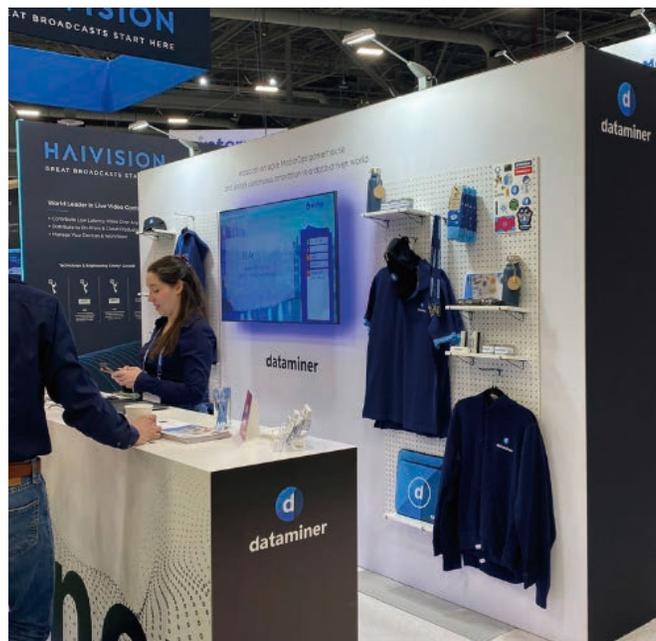
び一連の高度な機能をRiCaptureプラットフォームにもたらす。RiCapture製品ラインは、スケジュールリング、ストリーミング、エクスポートのための新しいSSEインターフェースにより、マルチチャンネルHD/UHDインジェスト収録とポストプロダクションへの統合のためのパワフルでコンパクトなソリューションとなっている。

## ■ Skyline Communications ブース ■

Skyline Communicationsは、メディア運用のステータスを変革する画期的な製品「dataminer.MediaOps」の発売を発表した。dataminer.MediaOpsは、その革新的なアプローチによりICTとメディアを調和させ、メディア&エンターテインメント(M&E)企業がライブやファイルのメディア運用を計画、実行、管理する方法を革命的に変革してくれます。もともとオリジナルで持っているAppsを放送局向けにパッケージした監視はもちろんのこと、スタジオリソース管理、スケジュールリング、コンフィグレーションまでをオーケストレーション&オートメーション化する新サービスである。



▶ オタリテックホームページ [www.otaritec.co.jp/](http://www.otaritec.co.jp/)



## ■ オタリテック取扱メーカーが各賞を受賞 ■

LAWO「HOME」TV Tech Award

LAWO「HOME mc<sup>2</sup> DSP」2024 Product of the Year Award

RIEDEL「MediorNet Horizon」BaM Award

Skyline「DataMiner MediaOps」BaM Award

以上、オタリテックニュースリリースより。

## ◆ RIEDEL | Interstellar Technologies

### RIEDELのインターカムとビデオ伝送システムで宇宙打ち上げオペレーションを改善

インターステラーの業務は、ロケットの打ち上げの監視と管理を担当する指令センターと、ロケットの打ち上げとエンジンの燃焼試験を専門とする燃焼試験および発射場という2つの主要な施設によってサポートされている。これらの重要なサイトは8km離れて位置しており、10GbEファイバー回線で相互接続されている。商用ロケットの監視と打ち上げは継続的かつ正確な通信で実行する必要があるため、2つのサイト間の通信回線は不可欠である。

しかし、拠点間の通信をデジタル簡易無線システムに依存していたために遅延が生じ、「ZERO」の打ち上げが近づくにつれ、重大かつ危険な課題が生じていた。さらに、インターステラー社は、燃焼試験と発射場の2台の4Kカメラの遅延を削減し、画質を向上させることができる、より効率的なIPビデオシステムが必要であることを認識した。

この課題を克服するためにリーデルとオタリテック社が提案したソリューションを開発した。

詳細は、動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=50CDtUPmsA0>



RIEDEL Communications Japanは、下記新住所に移転しました。  
リーデルコミュニケーションズジャパン株式会社  
〒150-0045 東京都渋谷区神楽町8-1 フォーラム渋谷神泉6F